



森のひろば

183号



2016年 8月発行 宇佐市民図書館



戦争と動物たち

今から70年くらい前、日本は戦争をしていました。当時は「戦争に勝つ」ことが大切なことでした。しかし、だんだんとはげしくなる戦争によって、人々のくらしは苦しくなっていました。さらに、戦争は人間だけではなく、様々な動物たちもまきこんでいったのです。

【軍用犬】

軍用犬は、戦場での連絡、警戒、捜索などにかかせない犬でした。日本と中国の戦争がはじまると、たりない軍用犬をおぎなうため、民間からシェパードなど任務に適した犬が集められ、訓練をうけて戦場に送られました。

【伝書バト】

ハトは、巣に帰ってくる能力が高く、長い距離を飛べるため、むかしから伝書バトとして通信手段につかわれていました。広い戦場の中で、部隊の連絡のために伝書バトが活躍しました。

【動物園の動物たち】

1943年8月、東京の上野動物園では、「空襲のとき、動物園からトラやライオンなどの猛獣がにげますおそれがある」という理由から、猛獣たちが毒や銃で殺されました。そのあと、全国の動物園でも猛獣たちが殺されはじめました。

『戦争とくらしの事典』(ポプラ社)より引用

8月の特集

戦争・平和

『かわいそうなぞう』	土家由岐雄	『火の壁をくぐったヤギ』	岩崎京子
『火垂るの墓』	野坂昭如	『希望の義足』	こやま峰子
『二十四の瞳』	壺井栄	『弟をかえして』	宮良作
『せかいいちうつくしいぼくの村』	小林豊	『伸ちゃんのさんりんしゃ』	児玉辰春
『地雷ではなく花をください』	葉祥明	『ちいちゃんのかげおくり』	あまきみこ
『ひろしまのピカ』	丸木俊	『七本の焼けイチョウ』	日野多香子
『飛べ!千羽づる』	手島悠介	『ふたりのイーダ』	松谷みよ子
『やさしい木曾馬』	庄野英二	『原子雲を見た子どもたち』	坂口便
『わたしのいもうと』	松谷みよ子	『ガラスのうさぎ』	高木敏子
『おにいちゃん、死んじゃった』	谷川俊太郎	『チロヌップのきつね』	
『かあさんのうた』	大野允子		たかはしひろゆき
『八月がくるたびに』	おおえひで	『ぼくが見た太平洋戦争』	宗田理
『ムッチャン』	中川正文		
『むらさき花だいこん』	大門高子		(このほかにもあります)

『夢だより』
みなさん、夏休みは、楽しんでいきますか？
今月の夢の特集は、『サマータイム』です。
夏にまつわる本を用意しています。一度はない今年の夏、本を手にとりつつ、たくさん遊んで、よい思い出を作ってください。
夏休み中も、夢は学校を回っています。予約の本や返す本がありましたら、ぜひ寄ってくれたら嬉しいです。



宇佐市民図書館

〒879-0453 宇佐市大字上田 1017-1

でんわ/0978-33-4600 ファックス/0978-33-4679



『チロヌツプのきつね』

たかはしひろゆき・作 より

《きつねのおやこ》

せんそうが、はげしくなつたと
しのことです。きたのうみにチロ
ヌツプというしまがありました。
ふりつづいたゆきがやみ、しま
のしらかば林のおくのあなの中
で、きつねの子が2ひきうまれま
した。ぼうやぎつねは、げんきも
の。めすのちびこぎつねは、あま
えんぼでした。

とうさんぎつねは、とつてきた
えものをかくして、子ぎつねたち
にさがさせました。ぼうやぎつね
は、はなをひくひくならしてかぎ
まわります。でも、ちびこぎつね
は、しらんかお。ちようちよを
おいかけながら、いつもどこかへ
いつてしまいます。

《おじいさんとおばあさん》

はる、「きつねざくら」がさく
ころになると、いつもそのしまへ
やってくるおじいさんとおばあ
さんがいました。

しまのおかの上にある、むすめ
じぞうにおじいさんとおばあさ
んがりよう手をあわせていると、
ちびこぎつねがすわっていますし
た。

子ぎつねは、おやとはぐれたの
か、ふもとのこやまでついてきま
した。かえろうとしない子ぎつね
をみて、おばあさんは赤いリボン
を子ぎつねのくびにむすんであ
げました。そして、きつねに「ち
びこ」と名まえをつけました。
いつしよにすこすうちに、ちび
こは、おじいさんとおばあさんに
だんだんついてきました。

《ちびことへいたい》

みじかいなつのおわりのある
日。おばあさんは、はまべでこん
ぶをほして、ちびこはおばあ
さんのちかくで、いたずらにむち
ゆうになつていました。そのと
き、ふかいきりのむこうから、く
ろいかけがちかづいてきました。
それは、きたのうみをまもるへ
いたいのふねでした。

「おつ、きつねがいるぞ。」
ひとりのへいたいが、てつぼう
をかまえました。

「だめじや、ちびこをうつちやな
らねえつ。」

おばあさんは、おもわずちびこ
をだいて、にげようとした
が、いしにつまずいて、たおれて
しまいました。

それをみたへいたいたちは、な
にもしないので、かえつていきまし
た。

《おじいさんとおばあさんのわ
かれ》

しらかば林がいろづくど、おじ
いさんとおばあさんが、しまをは
なれるときでした。おばあさんは、
ちびこをつれておじぞうさんへ、
おまいりにいきました。

「おかげさまで、ことしもさかな
がたくさんとれました。わしら
は、あすかえりますだ。」

おばあさんは、だいたちびこを
下へおろすと、くびのリボンをゆ
るめてあげました。

「やつぱり、かあさんのところへ
かえつたほうがしあわせじや。は
よ、いくんだ。」

そのとき、林のおくから、きつ
ねのなきごえがきこえました。ちび
こは、まるくなつてとんでいきま
した。

おじいさんとおばあさんがしま
をはなれる日がきました。おじい
さんが、ふねをこぎだしました。

すると、4ひきのきつねがは
まべにあらわれました。ちびこ
もいつしよです。おばあさんは、
からだをのりだすようにして、
さげびました。

「ちびこやあー。らいねんもく
るからのうー。きつねざくらの
ころにや、きつともどつてくる
からのうー。」

こうして、4ひきになったき
つねのおやこのくらしがはじま
りました。

《きつねのおやこのきき》

きたかぜがふくころになる
と、子ぎつねたちは大きくなり
ました。

きようは、おかのふもとをな
がれるおがわへいつてみまし
た。すると、「ダーン、ダーン」

と、おそろしいおとがしました。
ぼうやぎつねが、ころんとた
おれました。かあさんぎつねは、

つまずきましたが、とうさんぎつ
ねとちびこといつしよに、森のお
くへはしりました。

かあさんぎつねのあしのつけね
から、ぼとぼとちがながれてい
ました。とうさんぎつねは、その
きずぐちをなめてあげました。

ふたばんたちましたが、ぼうや
ぎつねは、かえつてきませんでし
た。

ちびこもおながすいたのか、
えさをさがしながら、ひとりで林
からでていきました。

「キヤキヤン、キヤン」
ちびこのこえがきこえました。
ただごとじやない！とうさんぎつ
ねとかあさんぎつねは、こえのす
るほうへとんでいきました・・・

このあとちびこやきつねたちは
どうなるのでしょうか。つづきは、
本を読んでみてください。